

組織・グループ名	任意団体) みんなのいい場所会議
活動区分 ※いずれか1つに○をつける。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般助成 〔 当事者活動支援・福祉の学び推進・地域福祉ニーズ(課題)対応・地域福祉コミュニティ構築 〕 ● 協働事業助成 〔 1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動 2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動 〕
助成事業名	子どものいい場所開催事業

みんなのいい場所会議

ボランティア活動グループ「みんなのいい場所会議」では、地域で子育て・地域で子どもの成長を見守るという考えの下、賛同する人々によって子どものいい場所事業を様々な形で開催しました。

子どものいい場所「日常の場・小さい鶴&ミニ食卓の場」

子どもがホッとして自由に過ごすことができる、学校・家庭・習い事など以外の居場所として隔週の日曜日



に開き、年間 30 回、延べ 260 人余が訪れました。活動スタートから 3 年半余、すっかりお馴染みになったウェルカムキャンディーを渡しながらかしみをもちて声掛けをし、子どもの様子を観ます。成長を楽しみながら見守り続けていきたいですね。ある夏の日には「昔は家の前の道で落書きして遊んだよね」と昭和生まれの店番ふたりが誘い、部屋の前のコンクリート床で落書きを始めました。他愛もない遊びに夢中になり、ゆったりとした時間が流れます。こんな時ふと見せる“素顔”を注意深く見つめ、聴いて欲しい“つぶやき”にそっと耳を傾けます。おやつタイムは居合わせた皆でおしゃべり、帰る前には子どもも一緒に片付けできました。

「夏休み！小さい鶴スペシャル」

夏休み最後の日曜日。新学期が始まる前に子どもたちの様子を見ようと毎年開いています。幼児連れ家族も訪れ部屋いっぱいプラレール広げて思いっきり遊ぶ場と、協働の駄菓子屋さん、盆栽教室など賑やかでした。



寄付された採れたて胡瓜やトマトを氷水で冷やし、味噌をつけてガブツとかじる食体験ではキャッキヤと喜ぶ笑顔。食卓の場では、できたての味噌汁や直前にレンジで再加熱したおむすびを提供するなど食



中毒予防に気をつかいましたが、美味しそうに頬張る顔が見られると、スタッフはいつも「やってよかったね！」と嬉しくなるのでした。

「研修会Ⅰ・Ⅱ」

「特徴のある子どもの対応はどうしたらよいか？」がスタッフ共通の課題で、専門家を招いて子どもへの理解と対応方法を学びました。他地域の活動者に呼び掛け、情報共有ができ、協力・連携に繋がる成果もありました。